

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホームほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80-74		
自己評価作成日	令和4年3月23日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800259-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様はご自身のペースで自宅のように過ごし、ご家族様も何の心配もなく生活出来るようにスタッフ一同取り組んでおります。皆様毎日の食事を大変楽しみにされております。毎食手作りで美味しい食事を提供出来るように頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほのかの里 桜丘」は、JR栗山駅から車で5分ほどの静かな住宅地に立地している1ユニット9名の事業所である。近隣にはホームセンターや栗山公園、飲食店もあり生活環境にも恵まれている。居間や食堂は明るく開放感のある造りで、観葉植物や季節の花が飾られており家庭的な温もりが感じられる。感染症の流行により以前のような地域交流は難しい現状であるが、感染状況を見ながら可能な限り外気に触れる機会を設け、りんご農園へのドライブや近隣への散歩、庭先での外気浴などを積極的に取り入れて利用者の気分転換を図っている。食事面では、季節に応じた彩りのよい料理を提供したり、専門店の寿司や弁当などを定期的に購入して食事が楽しめるように工夫している。職員の離職率も低く、職員間で情報交換しながら一人ひとりの利用者の思いに寄り添った継続的なケアに取り組んでいる。排泄や入浴支援では、それぞれの利用者のできることを尊重しながら複数職員の介助でトイレでの排泄を支援したり、可能な限りシャワー浴ができるように丁寧なケアを行っている。ケアマネジメントの面では、介護計画1表に家族や本人の意向を具体的な言葉で表現してサービス内容に反映させ、現状に即した介護計画を作成している。職員の対応や言葉遣いも優しく、笑顔の絶えないグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員それぞれが理念を理解し日々の業務を行なっております。	法人共通の理念に「いつも笑顔で、地域とともに」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言が含まれている。職員は、仕事前に居間の掲示を見て再確認することもある。管理者は職員採用時に説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため行なっておりません。	感染症流行前は、事業所の夏祭りに地域住民が参加したり、法人のデイサービスで実施していたボランティアによる楽器演奏や踊りを楽しんでいた。感染症収束後は、地域行事にも参加して交流したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり、そのような機会はありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議を行なってません。	感染症流行前は毎回テーマを設けて2か月ごとに開催して勉強会も実施していたが、感染症流行後は利用者の状況だけを書面で報告している。書面会議の時も、勉強会の資料のような役立つ情報を議事録と一緒に送付したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議が出来ていないので、伝える機会はありませんでした。	事務的な手続きはほとんど本部の方で行っているが、生活保護受給者の受診手続きや事故報告書などの提出で管理者が役場を訪れることもある。介護保険の認定調査員が来訪した時には情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な入居者はありません。玄関の施錠は夜間のみです。	「身体拘束ゼロへの手引き」を整備している。身体拘束適正化委員会や勉強会に関する議事録と資料は本部で保管しているため、職員が確認することが難しい状況になっている。現在拘束につながるような事例はない。	身体拘束適正化委員会や勉強会を定期的で開催し、職員がいつでも確認できるように議事録や資料は事業所内でも保管するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設にて虐待は無く、施設建物も小規模なので各スタッフの行動も目が行き届いております。		

グループホームほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はありませんでした。また、現在入居中の方々はご家族がしっかりしており成年後見人が必要の方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご本人、ご家族へ説明しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等から意見や要望があった際には本社へ伝え対応しております。	電話や面会時に利用者の様子を伝えながら家族の意見や要望を聞き取り、内容に応じて職員の連絡ノートや日々の介護記録に記入するようにしている。毎月、個別の「ほのかの里桜丘だより」を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度意見交換はしており、会社とも連携して反映させてます。	申し送りや普段の業務の中で職員の意見や提案を聞き取り、備品の買い替えなどは本部と相談しながら対応している。職員は、日々の業務や誕生会などの行事をシフトで分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍という事もあり、研修などの機会はありませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍という事もあり、そのような機会はありませんでした。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴等を参考にしつつ、一人一人が安心できる関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族とお話をして、ご要望等をお伺いし実践しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	都度必要な対応を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの方の性格などから、役割を持って頂き生活に参加している意識を作る努力をしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍以前はご家族様は定期的に来訪されご本人の様子を見て職員からも普段の様子を報告し共に支えていく意識を築いておりました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で馴染みの人の来訪はありませんでした。	知人からハガキが届く利用者もあり、職員は返信のハガキ作成を手伝ったり投函を支援している。職員と一緒に、感染症の流行状況を見ながらりんご農園にドライブに出かけたこともある。感染症流行前は、家族と外食したり自宅に帰る利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う方、合わない方を見極め席順等には気を付けております。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍以前は退去された方のご家族が玉に寄ってくださる事がありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションを通じて意向を把握しております。	会話から思いや意向を把握することが難しい利用者も多く、表情や仕草、今までの関りから把握している。6か月ごとに課題分析シートを作成しているが、趣味や嗜好などの項目がないため情報が不十分な面もある。	課題分析シートに趣味や嗜好の項目欄を設け、変化に応じて追記や更新を行いながら職員間で情報を共有するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族より聞き取り、普段の会話より把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合った過ごし方が出来る様に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと職員が話し合い作成しています。	事前に家族や本人の意向を具体的に確認し、サービス内容に沿った評価を基に6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録に具体的な変化を記録し、評価に活かしたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、介護記録で情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態に合わせて、その都度必要な柔軟な対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	栗山公園や季節を感じられる場所へ行く機会を作り、暮らしを楽しむ支援を行なっております。(秋祭り、紅葉観賞、りんご狩りなど)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	栗山赤十字病院の各科へ定期通院し、訪問歯科受診も行なっております。	利用者の状況に応じた受診期間で、職員と一緒に定期的に協力医療機関に通院している。主治医の紹介を受けて専門医で検査を受けることもある。通院ごとに用紙に記録して「受診綴」に個別に整理している。	

グループホームほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護職員が来ます。都度ケア等について相談しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	皆様栗山赤十字病院が、かかりつけ病院となっております。入退院の際は病院側と連携しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご本人、ご家族へ説明しております。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に沿って事業所として可能な対応について説明し、同意書をもっている。主治医の判断の下、家族の意向に沿って看取りも可能であると伝えているが、現在まで看取りを実施したことはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より職員間で事故の際の対応について想定しており、迅速な対応をしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行なっています。	感染症流行前は、年2回消防署や地域住民の協力を得て昼夜の火災を想定した避難訓練を実施し、今年度は夜間の火災想定で1回実施している。昨年度は自主訓練も実施していない。職員の救命講習受講は、計画的に進めたいと考えている。	感染症の流行状況を見ながら、自主訓練も含めた避難訓練を年2回実施するよう期待したい。また、地震時のケア別の対応を話し合い、記録を見える場所に掲示して定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気をつけて声掛けをしております。	名前は「さん」付けで呼びかけ、温かな姿勢で利用者者に接している。気になる言葉遣いは職員間で出し合い、より良い接遇につながるよう考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で聞き取りを行なっております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合った過ごし方をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や洋服の汚れに注意しています。		

グループホームほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好み、嫌いな物を把握しています。お手伝いも出来る方にはお願いしています。	野菜類を多くし、彩りのある美味しい食事を提供している。いなり寿司作りで酢飯を詰めてもらい、誕生会には赤飯やケーキでお祝いしている。本部から届く豪華な料理は利用者の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を把握して、意識的に水分が摂れる支援をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科とも連携し必要な口腔ケアをしています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じ、声掛け、トイレ誘導しております。	排泄チェック表を基に、日中は全員がトイレで排泄を行い、介助の時もできる動作を促したり、二人介助で自立に向けた支援を行っている。排泄用品も昼と夜に使い分けるなどの工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をみて医師とも相談し対応しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否も多いですが、声掛け等を工夫し何とか週2回の入浴をして頂いています。	金曜日を除き、主に午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。入浴を拒む利用者には動作の流れで声かけしたり、職員の交代で入浴につなげている。利用者の状態や希望でシャワー浴も行っているが、湯船に浸かり気持ちよく入っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様良眠です。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解をし、誤薬、飲み忘れがない様に注意しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方に合わせて退屈しないように支援しております。			

グループホームほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事としての外出、ご家族との外出がたまにあります。	感染症流行の状況を見極めながら、周囲を散歩したり、野菜の生育を眺めるなど外気に触れる機会が多い。家族と食事に出かける利用者もいる。少人数に分けてドライブを楽しみ、りんご農園や白鳥を見に出かけて季節感を味わっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の欲しい物を頼まれて、職員が買いに行く事がたまにあります。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話を掛けることはあります。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝清掃を行ない清潔を保っております。	居間の大きな窓から陽光が入り明るく、庭の木々を眺めて季節を感じることができる。窓際にあるソファ席はゆったりと寛げる団欒の場になっている。壁には小花の装飾品を利用者と一緒に飾り、花瓶には桃の花が生けてあるなど、春らしい温かな雰囲気づくりになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が好きな場所で過ごし、自由にされています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人、ご家族と相談し居心地の良い居室となるようにしています。	備え付けのクローゼット、ベッド、カーテンが用意されており、室内には観葉植物、椅子、仏壇、テレビなどが持ち込まれている。収納ケースの上には、それぞれに好みの小物類や飾りなどが置かれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方に合わせ、必要な対応をしております。(手すり、ベットの柵等)			

目標達成計画

事業所名 グループホームほのかの里 桜丘

作成日：令和 4年 4月 15日

市町村受理日：令和 4年 4月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議及び勉強会がコロナ感染予防対策として実施出来ていない。	運営推進会議、勉強会の再開を目指します。	コロナの感染状況にもよりますが、栗山町、町内会、ご家族、会社と協議し判断します。会議開催不能でも勉強会について書面での実施などの対応を別途協議します。	1年
2	6	身体拘束適正化委員会・勉強会の議事録が本社保管のため現場で確認することが出来ない。	各施設に議事録を置くようにして職員が何時でも確認出来るようにします。	各施設にも議事録を置くように本社と協議します。	1年
3	23	思いや意向の把握について入居時にご本人、ご家族より聞き取りをしていますが、情報が不十分な面がある。	ご本人の趣味や嗜好の把握に努め、職員間で情報を共有します。	入居時の聞き取りを課題分析シートに記載し、都度追記や更新をします。	1年
4	35	災害対策としてコロナ禍以前は年2回の火災避難訓練を行っていたが現在は以前のように出来ない。	今後は火災だけではなく、地震や水害などを想定し自主訓練を行いたい。	スタッフ間で災害時のケア別の対応を話し合い計画を立てて実施します。	1年
5	55	安全な環境作りを日頃より考えているが、度々転倒事故やソファやベットからの転落事故が起きてしまう。	事故を100%防ぐ事は出来ませんが、なるべく事故が起こらない環境に整備したい。	個々の歩行状態や動線、施設内の危険な箇所等を再確認します。また、居室内もベッドの高さ等も再確認します。やむを得ず事故が起きた場合の対応もスタッフ間で話し合い万が一の場合に備えます。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。